

「美術館魅力向上ビジョン」の方向性について（資料1）
事務局から説明。

（1）事務局原案の構成（柱建て）は適切か

【委員】多分これって全てアウトプットといいますか、何をやるかっていうことだと思うので、この土台っていうのは、館の運営改善であるとか、人的資源であるとか、財務的支援であるとか、そういった土台になるところの改善ということも必ず必要になってくると思うので、アウトプットでこういうことをやりたい、っていうことは前提としてあるのでしょうか、それを支えるためにはどういう体制が必要であるとか、どういうお金が必要であるとか、そういうところも一緒に検討された方が良いかと思う。

（2）ビジョン具体化の方策について

【委員】（周辺地域で）子育て世代の方がどんどん増えている状況の中で、行く場所がどうしても大型のショッピングセンターとか、そういう場所が土日の行き場所になったりしているので、ちゃんとした公園だとか、その中に文化を伝えられるような美術館があるというのはすごく重要。ただ、この辺アンケートなど今日の資料を見ていくと、やっぱりそれがなかなか気づかれていないところが問題かと思うので、やっぱり子育て世代が来たらこんなふう楽しめるっていうわかりやすいコンテンツが何かしら必要なのかな、というところで、ターゲットをその辺に照準を当てるのは重要な点だと思っている。

【委員】大学との連携ももちろんあるが、図書館だとか公園の施設がいくつかあるけれど、その辺の連携みたいなのもやっぱり重要だと思っている。…今びわこ文化公園で、どういうテーマでその公園自体を新しく展開していくかっていうことを実験しているところ。ある種アートも一つのテーマなので、その辺も実験しながら、何が美術館としても公園にコミットできるのかを考えていく。…今までは、公園に来る方って散歩しにきて、あとはそれぞれの施設、美術館に行く人は美術館に、図書館に行く人は図書館にしか行かないっていうので、それをうまく連携することで複数施設を利用していただいて半日ぐらいつついらっしゃるみたいな、滞在時間を増やすみたいなのがやっぱり重要かと思っている

【委員】やっぱり1つ1つの施設がかなり広い公園なので、歩くのにも結構大変なところがある。…最近グリーンスローモビリティのようなものだとかがあちこちで実験的に使われ始めているので、そういう自動運転でゆっくり走る車が公園内を回遊していて、移動したかったらそれに乗って、ゆったり違う施設に移動するみたいなのはこの公園に適しているモビリティなんじゃないかなと思った。

【委員】学生との連携の話でいうと、中々今の状態で学生たくさん来いって言っても来ないし、目的がないと来ないっていうのがある。…いろんなことをチャレンジできる公園にしていって、学生が公園をどう使っていくか考えていくことができれば良い。

【委員】県の全体の予算を考えたときに、この美術館単体にかかる予算はある一定の上限があると思うので、公園や他と連携しながら、うまくそちらに乗っかっていくのが美術館をより成長させていくという上でも重要かと思っている。そういう意味で公園と連携というよりはむしろ公園と一体となって、その中の新たな取り組みを公園の中にインプットしていけるような提案ができれば良いのでは。

【委員】(彫刻の森の例もあり、) アートに興味がない人も公園として遊びに来る、美術館をちょっと拡張するような取り組みをした方が、自然と美術に関心を持てるし、公園と美術館とが自然と一体になるのではないかな。

【委員】ここはすごく立地が分かりにくいというか、ここにどうやって来るのだろうかみたいな、そういうバリアが、いろんな県立美術館を見ているが、かなりハードルが高いということは事実だと思う。…頑張って点を繋げていくことが大事だが、それにしてもそれぞれの部局でのやり方もあり、美術館が言ってそれで変わるかという、これは中々厳しい。最初から相当厳しいところにいるっていう認識をした方が良いと思う。
…こういうことになると滋賀県がすごく面白い場所になって、京都に入りきれない若者たちが子育て世代として流入してくる、というシナリオを書ければ逆転すると思うが、それを仕掛けるのは相当大変そう。提案して、ビジョンを図化して一步一步進めていくということなんだと思うが、同時に、それが独立して、あいつら勝手なことをやりやがって、みたいな、美術館は美術館のことだけやっていけば良いんだよ、みたいなことにならないように、市内なりこの全体のステークホルダーの人たちにそういう話を還流させる何か戦略がないとなかなかつらい。

【委員】(公園内施設が) それぞれやったら良いんじゃないかという議論になると、これ以上動かなくなるので、やはり美術館が新しくなることを機会にして、この公園全体が変わっていく機会になる。…この公園全体を考えるような、そういうものを逆に県なりに提案していくというか、もっと大きな視点でこの公園をより生かしていくような場を設定していただけると、今先生方もおっしゃったようなことを議論していける場になるし、それはこの美術館にとっても、ここで作られるビジョンの実現に直結していくと思う。

【委員】美術館もこういう新しいことをするんだから、図書館も新しいこと考えているんだからっていうその部分を、若手の職員なんか結構考えたりもされているので、そういうワー

キングみたいのから始めるものでも良いでしょうし。いずれにせよ、美術館側としてこういう風にしていきたいというのを定めた上で、創造的なことを考えていくのは美術館が主導してやっていくような雰囲気もあるかなと思うので、それをちゃんとパーク PFI 事業者なりに受け止めてもらって、うまく調整していくというのが道筋かなというふうに思う。

【委員】アクセスに関しては、公共交通とセットでやっていかないといけないというのはあるし、小野田先生おっしゃるようにめっちゃめっちゃ厳しい状況なので、立地も含めて、バスのチケットと美術館のチケットをセットにしてちょこっと作るぐらいじゃ駄目だし、バス自体を無料にしたってそんなに人が来ないっていう状況なので、何かその辺はコンテンツ自体がやっぱりここに来ないといけない、行ったら何が出来るっていうのを、そっちから攻めていかないといけないのかなって思う。

あとはやっぱり学生ってそんなにお金落とさないんですけども、やっぱり頻繁に利用する目的を作って、自分たちのキャンパスの一つの施設だっていうぐらいに思ってもらってやらないと多分中々変わらないと思うので、やっぱりその発想をかなり転換しない限りは、ことは動き出さないのかなと思っている。なので県の方にもきちっと予算もそうですけど、やっぱり政策としてきちっと推進するっていう覚悟を持っていただくっていうのが前提なのかなっていうふうには思う。

【委員】検討の場を作っていくことが大事かなと。大学にせよ、高校にせよ、近くにたくさんあるので、会話する機会さえ作れば、それなりに皆さん始められると思う。そこが今ないんじゃないかなと思ひまして、まずそこを作って、ちょっとずつ始めてみる、ということは重要じゃないかと。そうするとぱっと出たアイディアでもなんでも良いのでやってみるっていう、それは別にアートに関係があれば良いんですけど、別になくても全然良くて、まずは来てもらうっていうことはやっぱり一番重要じゃないかと。

先ほどのアクセスの話とかもありましたけど、アクセスは確かに良くないとは思いますが、したいことがあればアクセスが悪くても皆さんも来ますので、あまりウィークポイントを改善しようっていうことよりも強みを作っていくっていう方向で考えた方がポジティブに見えるんじゃないかなと思う。

【委員】(近くにはショッピングセンターもあるが、)そこに子どもさんを連れてくる大人たちの何割かはなんかここじゃないよな、自分の子どもをもっと何か可能性あるところで、何かちゃんとしたものに、一流のものに触れさせたいって絶対思ってると思う。で、歩いて15分ぐらいだから1キロ、そこまでのハードルめっちゃめっちゃ高いですけど、でも意外とあんなものがあるって、図書館が隣にあって、リンクするとすごく良い。…まあなんか図書館の話ですけど、子どもたちベースで図書館があって、美術館があって、公園があるみたいな。繋ぐとこれは結構いけるんじゃないかな、ということも思った。もちろん美術館は美術館でしっ

かりやるし、そのための委員会なんですけど、こういう委員会を作ったんだから、これが何か起点になって他のところにネットワークを張るきっかけみたいなやつも、この委員会でのディスカッションから生まれてくると良いかなと思って敢えてお話してはいますが、さっき相当大変だよとは言いましたが、資源がいっぱいあって、それが横に繋がってないだけ。これは横につなげて行くとすごく面白いことに。…やっぱりここにある資源をどういうふうに繋げていくかっていうことからすると、めっちゃめっちゃ可能性はある。まあハードルは高いですけど、めっちゃめっちゃ可能性もあるし、まあショッピングセンターも巻き込みたいなと思ったりもしました。

【委員】魅力向上というのは、いわゆる周辺と言いますか、この公園全体、それは当然大学も、ショッピングセンターも含めて魅力向上に繋がってくるというような考え方で進めるのが良いのかなというふうにお話聞いてて思った。

【委員】やっぱりまずは良いコレクションがあるのであれば、それをできるだけ多く見せる機会を作る。で、何年も倉庫にしまっておくのであれば、例えば目玉になるものは特別展示室を作ってそこで見せていくっていうのがあるんじゃないかなと思ったりもする。…こういうようなものを作ることによって、あそこに行けばこれが見られるよっていうのは、常にあるというのは、それを見られるんじゃないかなというふうに思いますし、あと一方で、もし広い目でみて、自分のコレクションだけで足りないというのであれば買い足すというのもあるかもしれないんですが、基本的に難しいと思うので、やっぱり他館から借りる、特にその中で長期貸与というものを活用するのが良いんじゃないかなと思ってまして、特に最近、国立の美術館の国立アトリサーチセンターというのができましたので、ああいうところは積極的に貸与を推進する、国立美術館のコレクションを貸与するっていうところを目的の一つにしていますので、そういうところから例えば5年10年の単位で長期的に借りて、いろいろなアメリカの作品をここの部屋では常に見られるとか、そういうここの美術館ならではの特色っていうものを作っていくと良いんじゃないかなと思ったりしている。

【委員】市民ギャラリーがあるんですけど、ここは考えがいろいろあると思いつつ、多分あそこの展示をする人と、美術館に見に来る人っていうのはなかなかマッチしてないんじゃないかという、客層は。ああいうところって、基本的に公民館といいますか、市の施設でやれば良いんじゃないかなと思ったりもして、ああいうスペースを有効活用してもっとコレクションを展示するような。もちろん県として、ここはそういう市民が展示できるようなスペースを作るといのがあって計画を作ってるんだと思うんですけど、美術館のスペースが無いと言っている中で、言ってみればここでなくてもできるので、もうちょっと棲み分けして、県立の美術館としての地位を生かせるような方向にもっていったら良いんじゃないかなと思ったりしている。

【委員】(巡回展を)東京でやってたけども、大阪でもやってなくて京都でもやってなくて、滋賀でやってるから行こうかっていうようなことは確実にあると思うので、やっぱり企画展、巡回展等を考えたら、もう少し(面積が)ないとかなり厳しいだろうと思う。それから、独自の展覧会をやるにしても、結局800平米に合わせてやるということになると思うので、その点はやっぱり何かちょっと足りないという感じ。他の美術館を見てきた人にしてみるとちょっと足りないと思うことが多いと思うので、そこはやっぱり充実させていかなきゃいけないところかなというふうに思っている。

【委員】外部に収蔵庫を借りる。うちも考えたことあるんですよ、市内のど真ん中に作った美術館なので。収蔵庫、収納をどうするんだって話が出てきたときに、話はしたんだけど、収蔵庫が外にあるのは不便。不便と同時にそれを動かすために保険に入らなきゃいけなくなって、ばかにならない金額になるので、トラックに載せるのも大変だけど、実際にお金がかかってくるので、やっぱり館の中でされるのが良いと思う。

【委員】収蔵庫が地下にあるから、それを拡張するっていうことが非常に難しい。…だから、(設計を)設計者の段でやらせるのもあるけど、事前にこちらの美術館側でかなり詳細に機能を詰めた、我々試設計と呼んでいるんですけども、試しの設計を専門家を入れて、こういうことであれば可能になるんじゃないだろうか、っていう話をきっちり詰めた上で、例えば次の設計者選定に移行するとか。そういう今の現状を、地形的にも難しいし、現建物は良い建物だと思うが、非常に拡張が難しいとか限定性の高い設計をされているので、そのあたりをどう考えるかについてはちゃんと精査する必要があるなと思う。

【委員】予算的にも掘るよりは上にあつた方が良いのだろうなと思いますし、その辺、使い勝手の問題がどうなのかっていうことも含めて、一度色々研究してみることは必要かなと思う。

【委員】「文化庁アートプラットフォーム事業」という中で「SHŪZŌ」というデータベースを作って、国内の美術館の近現代の作品を分野横断的に見られるサイトを作って、そちらでいわゆる情報は得られるようになっていて、少なくともそういうところへ繋げていくレベルが必要なんじゃないかなと思っている。というのも、やはり研究員の人とか、いろいろ作品の貸し借りとかをする時も、そういうサイトとかを基に、まずはどの作家の作品をどこの館が持っているかを見ていくと思うので。

【委員】単純にアーカイブを作るっていうことが一つの目的になってしまうと業務のプラスアルファで結構大変なんですけど、このシステムをどうやって自分たちの今の仕事に結びつけて効率化できるかっていう観点からやっていけば、もうちょっともしかしたら将来

の効率化に繋がるというところで、より使いやすくなるんじゃないかなと思ったりはしている。

【委員】美術館の入館料っていうのは、だれかが負担する。個人が負担している場合は高い。じゃあ個人じゃなくて誰が負担するんだ、地方自治体が負担する、と。だから安いわけで、それかどこかの企業がその分を負担してくれるとか、そういう誰かが負担する。誰も負担しなかったら、それはもうしょうがないわけだけでも、あとは最終的には個人が負担するっていうことなので、その辺の考え方を持って、ここが被らなきゃいけない、という考え方にはならないほうが良いと思う。…単に美術館が料金表を書き換えれば良いという問題ではないということで、結局はそういうことをやると運営全体にやっぱり影響があって、どこかを我慢しなきゃいけないようになってきて、全体のサービスが低下してくるということになるから、そこのところはよく県の方と相談されるのが良いかと。

【委員】ただにしろってアンケートとかもあったけども、良いものに対してお金出すってことはそんなにハードルが高くないような気がする。だから、どうしても金額は言うんだけど、決してゼロだから良いというもんじゃないような気がしますし、それこそ充実するのであれば、という気がする。

【委員】多分ターゲットの話とも関連してくるのかなと思うが、ニューヨークとかだと、近代美術館もすごく高いんですけど、市民向けには市民カードみたいのがあって、それを見せればただで入れる、みたいなのがあったりするわけなので、例えばここは観光客向けに頑張ります、という方向であれば、一般の入館料は千円とかにして、市民はタダとか半額で入れる、みたいな設定もあるのかなと。そうじゃなくて、市民の教育向けなんですというのであれば、もう低額の入館料をとるくらいだったら無料にするっていう方針もあるかもしれないので、そこは何を誰向けを目指しているのかっていうところとかなり関わってくると思う。

【委員】子どももターゲットにするんだったら、年間カード作ってくればタダですよ、みたいな。そういうふうにするとりピーターにもなる。子どもができてからロサンゼルスUCLAで客員研究員やってたんですけど、子どもちっちゃいんで、メンバーズカードを作るのに登録料がいくらかかるんですけど、それやるともういろんなイベントがあって。スリッパオーバーって言って、美術館に泊まれるんですね。うちの子もがすごく喜んでるのは、博物館で夜の猛禽類の展示、イベントみたいなやつがあって、本当に鷹匠みたいな人が、フクロウを連れて5時ぐらいに行くんですけど、話してくれるんですよ。あと展示室とか夜見に行くと、フクロウってこういう生態でこうなんだよ、みたいな。じゃあ今日はみんな寝袋持ってきたからここでスリッパオーバーしようね、みたいな感じで。あれはすごかったで

すね。先ほどキャンプみたいな話もありましたけど、ここはそういうことが奇跡的に結構できるような場所でもあるので、何かうまく子どもと絡めながら、今の入館料の話も考えていただけると面白いのかなと思った。

【委員】単に金額を上げる下げるの話だけでなく、今みたいな全体の活動とうまく結びつけていくことで、何か有効に使うというのがあるのだと思う。

【委員】日本のミュージアムってどこもそうなんですけど、割と勉強というか、どうしても学びにいくところ、という感覚というか。働いてる人も、来る人もそういう感覚で来てる人は多いし、実際に見る人も静かでなきゃいけないなっていうのがあると思うので、…海外でも、チルドレンズミュージアムみたいのがあると思うので、そういうことを考えられてるのかなとは思ったんですが、体験型でやればきっと人は来るし、公園に来てる人たちが、公園に来たついでにちょっと例えばフリーゾーンとかで、体験しながらちょっと学べるっていうのがあれば、もしかしたらそのうちの一部の人が展示を見に来るのであれば、展示を見る人も増えていくんじゃないかなと思った。

【委員】子育て世代というものにターゲットを当てていくことは、やっぱりこの地域性というか、県の状況というかにフィットしてるんだなというふうと思う。

【委員】先ほどあったようなそういうチケットというか、会員であったり、キッズミュージアムであったり、そのためのスペースであったりというのが必要だと。それこそ一体化しながらやっぱり考えていただいた方が良くかと。

【委員】ここの美術館、工事とかいろいろ続いていたので、やっぱり外に対して存在がちょっと希薄になってきているっていうことは感じるので、改めて広報とか宣伝とかということの計画をしっかりとされた方が良くのかなと思う。…ここの美術館なんか新しく始まるっていう体制というのか、そういう広報も含めてされれば良いのかなと。そういうチャンスだと思いますので、小出しにすることなく、何か新しい活動と、そのものの広報と一体化してされるのが良いのかなと思う。

【委員】例えばJRさんに協賛しませんかと。広告代は何とかまけてくださいとか。そういう協力、結構企業ってお金は出せないけど、何かそういうようなやりやすいところがあったりするんで、まず予算ありきじゃない考え方もいろいろあるんじゃないかなとは思いますが。

【委員】(ネットの乗換案内検索で手前のバス停が最寄り駅になってしまう例もあり、) 多分

困る人いるだろうなと思って。いろいろあると思うんですけども、そういうことも体系的にいろいろ工夫して進めることが必要かなと思います。それこそ駅とかバスとかそういうところもちょっと巻き込んでお願いするしかないんですけども、でも彼らもそれで収入増えるはずなのでね。それこそあとはこの公園ですよ。先ほど最初にお話ししたように、全体でいろいろ考えよう。みんなで生き延びる方法考えようっていう方向でぜひやっていただきたいと思う。

【委員】例えば地域に関係する展示ということで、今まで滋賀県で言うと、近江八景の絵をたくさん集めるということになるんですけども、それもあって良いんですけども、現代の中でその地域性みたいなものを押さえることもあって良いと思う。うちはこの間サッカーなんですけども、パリ・サンジェルマンが来てたんです、大阪へね。試合があつて。それでパリ・サンジェルマンなんていうチームは企業ですから、それこそ今あったみたいに、単にユニフォームだけじゃなくて、そういう色の入った普通に着られるシャツとかパーカーとか、いろんなグッズを売ってるんですけども、それもなんかポップアップショップというんですか、1週間だけそこを貸してくれみたいなので、うちも館内のスペースを貸したことがあった。だから、何かそういうところとの提携とかそういうものも。展示室でなくても良いと思います、市民ギャラリーとかね、あそこのスペースでも僕は良いと思うし、何かそういうことで、初めて美術館行きましたっていう人もいると思うので、そういう機会を捉えて、来る機会を増やす。そういうところを積極的にやっていっても良いんじゃないかなというふうに思う。

【委員】(アメリカのミュージアムでは、)ミュージアムを本当に地域のものとして扱ってるんだなという印象だったので、何かここはそういうもんだっていう話ではないんですけど、さっきおっしゃってたような、地域の結びつきっていうのは、やっぱり地域の人があるきかけにはなりやすいと思うので、日常的に来るようなミュージアムを目指すのであれば、そういうことを考えても良いんじゃないかと思った。

【委員】美術館と行政体の県サイドとか、ワンチームになりながらある種やっていかないと多分難しいと思う、こういうビジョンの話は。

【委員】今多いですよ。知事部局、市長部局の美術館多くなっていると思う。教育委員会から外れているところ多くなっていると思うし、図書館は確かに教育委員会ですし、スポーツの方とも関係してきますし、公園や、多分商工労働部とかそちらの方とも関係されてくると思いますので、きっと滋賀県のいろんな違う仕事の仕方を少し変えていただくぐらいの大きな話にだんだんなってしまいかもしれませんが、ぜひこの機会にそうやっていただけると、ワンチームでやっていただけると良い前例になるのかなと思う。